

2020年 4月26日礼拝式次第

日本基督教団半田教会
横山良樹牧師

招 詞 : 詩篇 100 : 1~2 節
全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。
喜び祝い、主に仕え
喜び歌って御前に進み出よ。

讚美歌 : 21-205 番 (今日は光が) より 5 番のみ

今日は主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ。

詩篇交読 8 篇

祈 禱

教会の頭である全能の父なる神、新しい朝、新しい週の訪れを心から感謝いたします。復活節第2主日の礼拝を、今日、あなたはわたしたちにお許しになりました。主はよみがえられた、ここにはおられない、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかされると、あの日の朝、あなたの使いは墓を訪れた婦人たちに伝えました。すでに約束されていた御言葉があり、ことがらのさなかで主の使いによる示しがあり、わたしたちが赴く先にすでにあなたのまなざしと助けが与えられています。出会いがあります。このあなたの恵みのご支配に守られていることを信じて平安のうちに歩むことができますように一人一人を導いて下さい。コロナウイルス感染症対策下であり、さまざまに自粛が求められる現在の状況ですが、わたしたちを憐み、1週間の中にあるあなたにささげられたこのわずかな時間をどうかあなたが守り、導いて下さい。家庭でさまざまなかたちで礼拝を守るわたしたちにつらなる兄弟姉妹たちをどうかお守りください。今日も、御言葉を通して、命の源であるあなたに聴きます。課題を負って歩むわたしたち一人一人を清め、あなたの器としてふさわしく整えてください。救い主イエス・キリストの恵みに従って、分かち合いとゆずりあいと学びあいに生きる愛の共同体を形作ることができますようにあなたの霊をゆたかにこの場に注いでください。この祈り、主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

聖書朗読 : マルコによる福音書 12 章 28～34 節

彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け。わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい』このふたつにまさる掟はほかにない。」律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』と仰ったのは本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす捧げものやいけにえよりも優れています」。イエスは律法学者が適切に答をしたのを見て、「あなたは神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問をする者はなかった。

讚美歌 : 21-194 番「神さまは そのひとり子を」(1 番)
 神さまは そのひとり子を 世のなかにくださったほど
 世の人を 愛されました

説教 : 「子どもに何を教えるか」

子どもに何を教えるか

さて、一人の律法学者が、イエスさまが持ちかけられた難題に的確に答えたのを見て、「あらゆる掟の中でどれが第一か」を訊きました。掟は、この場合、律法を指しています。エジプトでファラオの奴隷であった人々が解放されたとき、彼らが手にした自由が、しかし、自分自身や他人を損なうことが

ないように神さまから与えられた恵みの枠組みが十戒であり、律法でした。もう少し一般化しますと、人間という、ひとのあいだに生きることを本質とする生き物が互いに無益に傷つけあわないように、社会や組織を作らねば生きてゆけないわたしたちが円滑に人間関係を、社会生活をまわしてゆくためにこうした掟や、ルールは絶対に必要なものと言ってよいでしょう。パッと思いつくものでは「殺すな、傷つけるな、盗むな」の「法は三章」という中国の故事があります。こういうのは最低限ですね。一般に法律というのは必要最低限であり、道徳や、その道徳規範を生み出すベースとなる宗教はそれよりは高い次元の要求、倫理をわたしたちに求めるものです。わたしたちは最低限のルール、たとえばゴミ出しのルールのような取り決めレベルのものから、法律で処罰されるもの、「殺すな、傷つけるな、盗むな」といった身体や財産に被害を及ぼす行為を禁じるものまでさまざまな掟に囲まれています。今日の個所で律法学者がイエスさまに問うた「あらゆる掟の中で何が第一か」というのは、そうした掟そのものを生み出す源、原点を問うたのです。これに対するイエスさまの答えは「神を愛すること」と「隣人を愛すること」でした。このお答えはイエスさまのオリジナルではなくて、申命記 6 章 4 節から「心を尽くし、精神を尽くし、想いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」という教えを引いて、これが第一だと言われたのです。ようするに全身全霊をもって神を愛しなさいということです。献身と言い換えても良い。身をささげて一心・精神・思い・力―を総動員して神に向かうことが第一だということです。「愛しなさい」という言葉が用いられています。不思議ですね。「守りなさい」ではないのです。それは、神さまがわたしたちに「守れ」と命じるのではなく、「愛して」下さったことに対応しているのです。ならば、わたしたちが神を愛するとは具体的にどういうことを指すのでしょうか。イエスさまが関わられた例をひとつあげるならば、ルカによる福音書が記している「罪深い女を赦す」という出来事が参考になります。ファリサイ派のシモンの家に客となって呼ばれたところにその町に住む罪深い女が香油の壺をもってやってきて、うしろからイエスさまの足元に近寄り、涙で足を濡らし、自分の髪の毛をほどいてぬぐい、足に接吻をして香油を塗ったのです。それを見ながら心の中でシモンはこの人は自分に触れているのがどんな女か分からないのか、預言者ではないのか、と考えていた。するとイエスさまは「シモンあなたに言いたいことがある」と言って、金貸しに借金を帳消しにしてもらった二人の男の話をしませぬ。ひとりには 500 デナリオン、もうひとりには 50 デナリオンを借りていたが返せなかった。そこで金貸しは

二人の借金を帳消しにしてやった。さて二人のうちどちらが多くその金貸しを愛するだろうか、と訊くのです。「帳消しにしてもらった額の多い方です」と答えると、「正解」とイエスさまは言い、その答えをもってファリサイ派のシモンと罪深い女を比較するのです。あなたは家に入ったとき、足を洗う水もくれなかった。女はどうだったか。あなたはわたしに接吻の挨拶をしなかった。女はどうだったか。あなたはわたしにオリーブ油を塗ってくれなかったが、女はどうだったか。だから言うておく、この人が多くの罪を赦されたことはわたしに示した愛の大きさで分かる。赦されることの少ない者は愛することも少ない、そう述べて、女に「あなたの罪は赦された」と宣言されたのです。この罪深い女のした行いに、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、神を愛する姿があらわされています。全身全霊をもって主に仕えること、自分のもてる最高のものをもって主をもてなすこと、なによりも後ろからイエスさまに近づいた女のように、みずからのふさわしくなさを知りながら、なお御前に進み出て額づく姿こそ、礼拝の本質を示しています。いまわたしは礼拝と言いました。あれ、神を、全身全霊をもって愛する話ではなかったか、と思われるかもしれませんが。しかし、神を愛することは聖書の文脈では、礼拝をささげることなのです。神さまを崇め、賛美し、語り掛けて下さる神の声に応答することを神さまは求めておられるのです。七日のうちの一日を安息日として日常から取り分けて、ご自身を礼拝する日とされたことからそのことは分かります。わたしたちは、独り子をすら賜るほどにわたしたちを愛して下さった方にお目にかかりにまいります。今日は聖餐に与りますが、主が整えてくださった食卓の客とされます。神がこのように「愛して下さった」から、罪びとの自分が「主に愛された者」「赦しを受けた者」として上書きされて、「愛する者」として世の中に派遣されてゆくのです。この礼拝を通して培われる命の交わりが信仰者の支えです。隣人を自分のように愛する力はわたしたちの中からは出てきません。神の愛にふれて初めて枯れることのない泉を知るのです。与えることを恐れない人格へと変えられてゆくのです。聖書の教えは、わたしたちに全力を求めます。「人に迷惑をかけてはならない」、とか。「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」といった消極的で、小さな教えではありません。聖書の教えは小さい努力で、最小限で済ませようではなく、積極的に、大きな努力で、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、全身全霊で、神を礼拝し、神に献身することで、さらに豊かな恵みを与えられてゆく生き生きとした応答なのです。御言葉を受け入れて生きる人に神は 30 倍、60 倍、100 倍の収穫を約

束されたではありませんか。御言葉によって人格と人生と共同体を形作る喜びに満ちた働きがここにあります。

最後に、こんな話を思い出しました。西郷隆盛が「敬天愛人」を座右の銘としていたことは知られています。天を敬い、人を愛する。この西郷を勝海舟の紹介で坂本龍馬が訪ねました。帰宅した坂本に勝が西郷の印象を尋ねると、「はあ、あの人は馬鹿でした。ただその馬鹿の底が知れない。小さく叩けば小さく鳴り、大きく叩けば大きく鳴る」とお寺の鐘に例えて話し、勝海舟を感心させました。わたしたちも同じではないでしょうか。神を大きく望み見て叩く者、愛する者に神は豊かに応えて下さいます。もともと地上に道はありません。しかし、命の泉に通う人が多くなれば、そこに道が生まれます。先達が礼拝を通して切り開いてきた命にいたる道があります。この道を大切に守り、命の泉のありかを指し示したく願います。

お祈りいたします。

神さま、あなたの聖なる御名を崇めます。主日礼拝に招かれ、わたしたちはあなたの御前に一週間の実のりをたずさえて集います。それはやがてあなたの御国において、あなたにまみえるであろう時の先取りです。今朝も命の御言葉により、わたしたちを愛して御許に招き寄せて下さるあなたにふれることが許され、心から感謝をいたします。どうか、あなたの民を、あなたご自身が牧してお守りくださいますように。わたしたちの執り成し手であり、救い主である主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン

讚美歌 21-394

「信仰うけつぎ」(1番)

信仰うけつぎ 試練にたえて
今、わが心に 喜びあふれる
信仰うけつぎ 今日進み行こう

使徒信条

聖餐式

献 金

報 告

添付の週報をご覧ください

祈 禱

主の御名が崇められるように。コロナウィルス感染症対策
下で、医療・介護・福祉に従事する方たちのために、とも
に礼拝をささげる日が与えられるように。

主の祈り

天にまします我らの父よ
ねがわくば御名をあげさせたまえ
御国を来たさせたまえ
御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を 我らがゆるすごとく
我らの罪をも ゆるしたまえ
我らを試みにあわせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄とは 限りなく汝のものなればなり

アーメン

祝 禱

主イエス・キリストの恵みと、
父なる神の愛と
聖霊との親しき御交わりが
主の恵みのご支配を信じてこの世を生き抜く
あなたがた一同の上に、とこしえにあるように。

アーメン！